

1. 2017 年度 重点事項と評価

常設展リニューアル準備、及び、デジタル伝記資料公開拡充、それぞれについて、順調に、展開してきている。

イ. 常設展リニューアル（2020 年 3 月公開予定）の構想素案を策定する。

⇒ 2017 年度に基本計画を完成し、2018 年度においては、これに基づき、展示設計の策定に取り掛かる。

ロ. 2016 年度に公開した『デジタル伝記資料』について、公開内容の拡充を図るとともに、活用範囲（地域など）の拡大を図る。

⇒ 2017 年度には、約 2000 件の追加公開を行うことができた。さらに、2016 年度の米州に続き、2017 年度は、欧州（資料専門家欧州協会年次大会）において、資料内容および活用方法について、積極的に紹介してきた。

2. 研究センター

(1) 重点事項と評価

イ. 2015 年度より開始している合本主義プロジェクト第 2 フェーズのワークショップを確実に開催し、合本主義研究を進化させる。

⇒ トルコプロジェクト:2017 年 4 月 28 日に名古屋にて打合せを行った後、5 月 20 日・21 日で第 3 回目となるワークショップを開催した。トルコ人研究者 6 名と、第 1 フェーズにも参加した英・米・仏の研究者 3 名、日本の研究者 3 名が参加した。第 3 回目で最後となるということで、各人が最終原稿に近い形の原稿を持ち寄り、一つ一つ内容を発表して議論した。

⇒ 東南アジアプロジェクト:昨年、バンコクで開催した第 3 回ワークショップにて進捗状況が芳しくない状況が確認されて以降、編集体制、執筆陣の調整に努めた結果、9 月 22 日のロンドン、10 月 25 日の東京での編集会議、12 月 8 日～10 日のジャカルタ、バンコクでの打合せを経て、陣容がほぼ固まり、2018 年 5 月 25 日・26 日に東京で全員でのワークショップが開催されることになった。

ロ. 北京大学等との共催による「儒商会議」の東京会議の主催を通して、国内外におけるビジネス界、学术界とのネットワークを強化する。

⇒ 基調講演者の調整がつかず、結局、東京での会議開催は中止となった。その後、北京大学にて第 5 回大会が 11 月 25 日・26 日に開催されることとなり、招待に応じ、参加した。渋沢栄一についての報告はなかったが、会議で議論される内容は、渋沢の事績・思想に重なる点が多く、多くの示唆を得ることが出来た。会議終了後に、今後、当財団との協力関係を協議し、あくまでも学术交流、渋沢栄一研究の協力での継続をすることを確認した。

ハ. 研究者育成について、各事業を通して取り組んでいる部分と、従来の事業では組み込めないニーズを分析、把握し、適切な研究者育成プロジェクトの枠組み作りを行う。

⇒ 海外研修（守屋淳氏、2018 年 4 月 11 日～9 月 30 日、トロント大学倫理研究所）の目途が立ち、実施に向けての準備が進んだ。

ニ. これまでに実施したプロジェクトの成果出版を着実に行う。

⇒ 着実に歩を進めたが、一部、積み残しが出た。

(2) 事業内容

イ. 寄付講座

(イ) 華中師範大学寄附講座：「渋沢栄一優秀論文賞」の贈呈に関しては、応募論文が 1 件のみで選考に至らず、見送りとなった。当方からの専門図書寄贈についても実施に至らず、2018 年度分と合わせて寄贈する予定。

(ロ) 東京大学寄附講座

A. 6 月 29 日にシンポジウム「トランプ外交を評価する」、10 月 31 日に米国ユダヤ人協会理事長デヴィッド・ハリス氏による特別講演会「新時代のアメリカ外交—ユダヤ系アメリカ人の視点」を開催。

B. 斎藤眞氏遺構集『アメリカを探る』（みすず書房、2017 年 10 月）刊行にあたり支援した。

ロ. プロジェクト成果の出版

(イ) 日韓中米企業家精神プロジェクト：6 月 20 日に中国・南京にて国際企業家研究シンポジウムを開催した。また、2016 年に韓国・光州にて開催したシンポジウムの成果を南京大学出版社から刊行予定。

(ロ) 比較思想プロジェクト：2017 年 12 月 14 日に国際文化会館にて成果刊行記念のシンポジウム「グローバル時代の民主主義を考える」を開催。

(ハ) フィランソロピーシリーズ出版：

A. 2018 年 2 月に第 2 巻『帰一協会の挑戦と渋沢栄一』をミネルヴァ書房より刊行。その出版記念シンポジウムを千葉大学 (1/24) と国際文化会館 (3/6) にて開催。他巻についても、2021 年 3 月までにシリーズ全巻刊行に向けて研究会（合宿含む）を開催。

B. 2017 年 5 月に北京外国語大学で開催された東アジア文化交渉学会第 9 回大会にて各巻編集担当者によるパネル報告を行う。併せて編集会議を実施。

(ニ) 産業技術導入における実業家のリーダーシップ：2018 年 3 月現在、原稿の校正等出版に向けて準備中。

ハ. 渋沢栄一研究の促進

(イ) 論語とそろばんセミナー

A. 「論語とそろばんセミナー」の開催
2018 年 1 月 13 日に史料館見学を実施。20 日に御茶ノ水ソラシティにて「論語とそろばんセミナー2018」を開催。

B. 『論語と算盤』読書会の運営
2017 年 9 月 20 日の第 1 回から 2018 年 7 月までに計 10 回開催予定。

C. 経営者インタビューの実施
3 名の企業経営者に対してインタビューを実施。内容は、『青淵』9 月号、11 月号、12 月号にそれぞれ掲載。

(ロ) 合本主義プロジェクト：トルコと東南アジアを対象とした第 2 フェーズの研究を実施。トルコについては、現在、研究成果の出版準備中。東南アジアについては、今後の方向性が確認され、執筆陣がほぼ固まるに至った。

(ハ) 儒商会議：日本で開催予定だったプログラムは中止。11 月に北京大学で開催されたプログラムに参加し、今後も学術的な交流を継続していくことを確認した。

(ニ) 倉敷・カンザスシティ国際シンポジウムの開催：2018 年 1 月 29 日に倉敷市にてシンポジウム「近代岡山における実業家と学術・文化・公益事業」を開催。

(ホ) 『太平洋にかけの橋』英訳プロジェクト：2018 年 12 月の出版に向けた翻訳・図版の確定作業等を実施。

(ヘ) 協賛・助成・支援事業

A. 協賛:「渋沢・クロード賞」への協賛として、アルノ・グリヴォ氏に対し賞金贈呈。

B. 助成事業:9 件の事業に対して総額 992 万円の助成金を交付。

C. 支援:経営史学会紀要の英語版“Japanese Research in Business History”の出版を支援。

(ト) 事業部関連事業:シンポジウム「1867 年パリ万国博覧会と幕末日本～人物で読み解く～」を 11 月 19 日に日仏会館で開催。

(チ) 研究者育成プロジェクト:語学研修として作家の守屋淳氏を半年間(2018 年 4 月～9 月)カナダ・トロントに派遣すべく準備を進めた。

二. 新規プロジェクト

(イ) 2017 年 3 月 30～4 月 1 日にかけてアメリカ・デンバーで開催された米国経営史学会に参加。

(ロ) 『太平洋にかける橋』の復刻版を刊行。

3. 情報資源センター

(1) 重点事項と評価

イ. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』
全文公開へ向け、著作権処理による本編の公開範囲拡大・別巻公開準備

⇒ 本編：著作権調査進行中、引用資料約 2,000 件追加公開
別巻公開パイロットプロジェクト：デジタル版「実験論語処世談」更新、『伝記資料』未収載資料追加・論語情報集約ほか

ロ. 社史・企業史料関係
社会事業変遷図公開開始、国際的な情報発信の強化

⇒ 社会公共事業の変遷図 24 公開
「渋沢社史データベース」に英語データ追加、英文利用案内公開

ハ. 情報資源開発・発信の強化
財団刊行物を資源化し蓄積・発信するための「機関リポジトリ」設置準備

⇒ 財団刊行物記事索引データ作成、『渋沢研究』デジタルデータ (PDF) 整備

(2) 事業内容

イ. 各種デジタル資料・データベース開発の継続

(イ) 社史プロジェクト

A. 「渋沢社史データベース」(8/3、3/23 更新：データ約 1 万件追加、日本語利用案内公開、「社史紹介」を SSD に集約・移転)

(A) 利用状況 (4/1-3/31) : セッション数 397,721 (前年同期比 105.21%)、ユーザー数 344,680 (同 107.5%)、ページビュー数 2,172,132 (同 109.11%)、世界 121 カ国から利用

(B) 情報発信 (ブログ) : 参考図書解題等 1 件
<p>B. 渋沢栄一関連事業変遷調査 Web での変遷図公開:計 145 図、ブログ「変遷図紹介」掲載 12 件 展示協力のため東京大学経済学部資料室へデータ提供 (11/14)</p>
<p>C. 実業史資料 (ビジネス・アーカイブズ) メルマガ配信 5 回 (3 月末現在購読者 1,140 名)、優良事例集 Web 掲載 4 本</p>
(ロ) 実業史錦絵プロジェクト
絵引データベースのサーバー移転完了 (5/30)
(ハ) 渋沢関係情報資源開発
A. デジタル版『伝記資料』
(A) データ更新等 4 回
(B) デジタル版「実験論語処世談」更新 (3/28)
(C) 第 19 回図書館サポートフォーラム賞授賞式・記念講演 (4/17)
(D) EAJRS (日本資料専門家欧州協会年次大会、於オスロ) で発表 (9/14)
(E) 第 19 回図書館総合展ポスターセッション出展 (11/7-9)
B. 渋沢関係情報発信
<p>(A) Web 上の情報発信 「事業一覧」更新 (社会公共事業変遷図へのリンク追加) ブログ:「栄一関連文献」8 件追加ほか (ブログ更新 67 日、年間ページビュー35,478)</p>
<p>(B) 『青淵』連載 「書庫のしおり」(栄一関連文献の紹介) 6 件、「変遷図紹介」6 件</p>

(C) 「雑誌記事索引集成データベース」(皓星社)に『青淵』目次データ搭載

C. グローバルな情報発信
『渋沢栄一伝記資料』網文英訳、4、5 巻再校納品

ロ. 実業史研究基盤整備

(イ) 基盤整備
資料収集 318 点、資料整理 1,298 点、保存対策(保存箱作成準備)

(ロ) 環境整備・情報発信

A. 実業史研究情報資源のネットワークに協力、講演等 5 件

B. センター事業に関する記事執筆 18 件

C. レファレンス回答、Web サイト更新、研修・見学への対応ほか

D. 企画展等展示記録作成 「渋沢史料館常設展示」1 件

ハ. 協力事業

国際アーカイブズ評議会(ICA/SBA)、渋沢敬三記念事業ほか

4. 学芸課

(1) 重点事項と評価

イ. 2020 年 3 月までの完成をめざし常設展示をはじめとした渋沢史料館リニューアルの本格的検討をすすめ、基本計画を策定する。

⇒ これまでの展示をはじめとした活動での試みや成果、また他館の調査、視察等を行い、収集した最新情報ふまえて、リニューアルのコンセプトや計画内容の検討を行った。そして、基本計画をまとめ、次年度のリニューアル展示設計に向けた準備を行うことができた。今後も検討を重ね、リニューアル実施につなげることが出来る。

ロ. 渋沢栄一渡仏 150 年に関わる企画展及び関連事業を展開する。

⇒ 企画展示「渋沢栄一、パリ万国博覧会へ行く」の第一期、第二期展示を行い、渋沢栄一の初めての近代西欧社会の体験やその想いを紹介した。本企画展第一期と第二期の間の夏季には、パリ万博に関する普及展示として、企画展「渋沢栄一とヨーロッパ旅行」を開催し、パリ万博展にあわせて発行した「絵本」の原画展示を通して、欧州での栄一の様子などをわかりやすく紹介した。これまでの資料の整理、調査・研究成果を活かしつつ、狭い空間を効率よく使用し、情報をうまく整理して伝えることができた。今後のリニューアルにつなげることができる。関連事業として、講演会、連続講座、座談会、コンサートなどを開催し、参加者に当該企画展への理解をより深めてもらうことができた。

ハ. 晩香廬 100 年を記念した関連事業を展開する。

⇒ 建築講座やトークショー、ワークショップ、建築解説会などのイベントを開催し、参加者に晩香廬に対する興味・関心を深めてもらうとともに、それを通して、渋沢栄一についても興味・関心をもってもらい、来館者層のすそ野をより広げることができた。

(2) 事業内容

イ. 渋沢史料館入館者数及び史料館収入の推移

2017 年度 入館者合計 27,789 人 入館料収入 6,329,400 円

ロ. 展示

(イ) 企画展 : 3 件

(ロ) 収蔵品展 : 0 件

(ハ) 常設展の展示替え : 1 件

(ニ) その他の展示 : 3 件

ハ. 教育普及

(イ) 渋沢栄一命日記念事業「青淵忌」

(ロ) エデュケーションプログラム

(ハ) 建築講座

(ニ) ワークショップ

(ホ) トークショー

(ヘ) コンサート

(ト) 小学校への出張授業 2 件

ニ. 資料収集

(イ) 受贈資料 : 4 件

(ロ) 購入資料 : 3 件

(ハ) 受贈・交換図書：約 1,000 件
(ニ) 購入図書：11 件
(ホ) 製作資料：当館所蔵資料、外部機関所蔵資料の複製：49 件

ホ. 資料整備

(イ) 除塵・防黴作業
(ロ) 資料のくん蒸作業
(ハ) 館内環境調査
(ニ) 資料の代替作業（写真資料複製等）
(ホ) 劣化対策（資料保存容器の製作）
(ヘ) 晩香廬虫害調査

ヘ. 資料の活用

(イ) 資料閲覧件数：51 件
(ロ) 資料貸出件数：92 件
(ハ) 展示・出版・放送等協力：169 件

ト. 図書等の刊行

(イ) 図録類：1 件
(ロ) パンフレット類：19 件

(ハ) ミュージアムグッズ類 : 14 件
(ニ) その他 : 1 件

チ. 調査・研究
(イ) 館員による執筆・寄稿など : 51 件
(ロ) 渋沢栄一の漢詩の訓訳、注釈作成作業 : 1 件
(ハ) 渋沢栄一邸に関する調査 : 1 件
(ニ) 穂積歌子日記関係 : 1 件

リ. 建物公開
国指定重要文化財 晩香廬・青淵文庫内部公開 通年 10:00~15:45

ヌ. 広報事業
広報記事掲載・放映等実績 : 98 件

ル. 館員の館外活動
(イ) 講演・講座・出張授業等 : 44 件
(ロ) 博物館等視察 : 21 件
(ハ) 資料調査・出品交渉等 : 7 件
(ニ) 研修会・講演会等への参加 : 5 件

(ホ) 委員会・打合せ：50 件
(へ) 三館関係会議等：46 件（三館打合せ会議：12 件、3 館学芸部会議（本会議）：5 件、その他：29 件）
(ト) その他：19 件

ヲ. 常設展リニューアル
常設展リニューアル基本計画策定

5. 助成事業

	団体名・申請者名	申請事業名
1	公益財団法人国際文化会館	戦後日本の国際文化交流史の研究に資するアーカイブの構築
2	渋沢栄一杯経済史・経営史 ディベートリーグ	渋沢栄一杯経済史・経営史 ディベートリーグ
3	是澤博昭	満州国と子供—少年少女の日満親善
4	公益財団法人国際文化会館	新渡戸国際塾
5	京論壇東京大学実行委員会	京論壇 2017
6	見城悌治	『近代日本で学んだ留学生の動向と帰国後の活動—医薬・園芸・工芸・師範分野を中心に』
7	飯森明子	『戦争を乗り越えた日米交流—日米協会の役割と日米関係 1917-1960 年』(仮)
8	伏見岳人	『台頭する中国と日本外交』(仮)の翻訳出版と記念シンポジウムの開催
9	両大戦間期研究会	歴史的転換点:1919 年パリ講和条約のアジアへの影響と 1920 年代の国際社会

6. 総務部

(1) 支部の状況 (2018 年 3 月末現在 18 支部)

諏訪	京都	仙台	山形	野田	盛岡	秋田
酒田	宇都宮	香取	氷見	加茂	岡谷	小諸
海匠	茨城	白河	深谷			

※ 支部名に網掛けのあるのは、本部で会費徴収事務を代行している支部

(2) 維持会員数・会費収入の推移 (過去 3 年)

(単位：人数、社数、口数は 1、会費収入は千円)

年度末	個人会員		団体会員			会費収入 合計
	人数	会費収入	社数	口数	会費収入	
2015	1,465	7,178	262	1,333	13,400	20,578
2016	1,403	6,900	263	1,339	13,430	20,330
2017	1,364	6,445	256	1,330	13,522	19,967

(3) 寿杖

2017 年度 寿杖会員：3 名

(4) 講演会開催

イ. 支部講演会

支部名	講演会開催日	支部名	講演会開催日	支部名	講演会開催日
海 匝	2017/4/20	野 田	2017/8/25	秋 田	2018/1/24
秋 田	2018/2/18				

ロ. 提携講演会（提携先：みずほ総合研究所株式会社）

年 度	東京・関東会場		大阪・関西会場		合 計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
2015	12 回	232 名	12 回	27 名	24 回	259 名
2016	12 回	219 名	12 回	48 名	24 回	267 名
2017	12 回	261 名	12 回	46 名	24 回	307 名

(5) 機関誌『青淵』の発行

2017 年 5 月号（818 号）～2018 年 4 月号（829 号）：発行部数：3,500 部/月

(6) 関連事業

イ. 第 34 回 渋沢クロードル賞

ロ. 第 16 回 渋沢栄一賞

ハ. 第 7 回 渋沢栄一ビジネス大賞

2017 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。